

大野市子ども・子育て会議（第3回）会議結果の概要

日 時 令和2年1月17日（金）午後7時～午後9時

場 所 結とぴあ 302号室

1 会長あいさつ

青井会長より

2 議 事

（1）委員の交代等について

○民生委員児童委員の一斉改選に伴い、大野市民生委員児童委員協議会 清水進治氏の後任に、杉原眞一氏を推薦いただいた。

○副会長の互選について

杉原眞一氏に決定

（2）大野市子ども・子育て支援事業計画（素案）について

●今後のスケジュールの変更について

本年度中に（仮称）大野市子育て世代支援パッケージを策定することとしており、来年度の当初予算の方向性について、支援事業計画とパッケージの両方に盛り込みたいと考えている。そのためパブコメは3月に入ってからとなり、本年度最後の会議は3月下旬頃を予定。

●前回（第2回目会議）からの素案の修正について

【当日配布のA3資料にて事務局より説明】

○委員からの意見

1ページの「計画策定にあたって」のところで、第2期計画も、子育て世代包括支援センターを重要視している旨のことを盛り込んだ方がよいのではないかと。

○事務局

この部分に個別の名称として入れることは難しい。

○委員からの意見

7ページの婚活アンケートについて男女別に示したことは良いが、男女の母数は同じにした方がよいのではないかと。

○事務局

母数が男女で違うことについて、男性400人、女性400人、年齢構成もばらしながら男女同じ数でアンケートをとった。母数は、市にアンケートが戻ってきた数である。

○会長

アンケート方法について少し明記したらよい。

○委員からの意見

18ページの、基本施策2「妊娠期から出産・産後の健診・相談体制の充実」のところと、20ページ 基本施策3「結婚に向けた思春期からの保健対策」は、女性（母親）のことだけでなく、男性（父親）のことも含めた方がよい。

○会長

お父さん支援の記述は、母子保健のところに入れる方がよいのか、母子保健は母子保健で独立させた方がよいのか。無理やり母子保健のところにお父さんのことをいれるとブレてしまうのではないか。ほかの箇所でお父さん支援を入れた方がよい。地域とか社会全体でとかいうところはどうか。

○委員からの意見

27ページ 「大野市すみずみ子育てサポート事業」「子育て短期支援事業」など、分かりやすく書かれてあるが、どこが実施するのかわからない。

○事務局

担当部署を記載する。

○委員からの意見

29ページ 【施策の方向性2】「国際化・情報化社会に対応できる人づくり」のところ
で、英語だけが多様な文化ではないので、多言語について記載した方がよいのではないか。

それとICTとは何か分からなかった。

○事務局

担当課に確認する。

○委員からの意見

32ページ 基本目標5「配慮を必要とする子どもと家庭への支援」 基本施策1「専門的な支援を要する子どもや家庭への支援」のところ
で、「気がかりさ」という言葉が分からない。

○事務局

気がかりさは、福井県は発達障害の分野で使っている。

○会長

説明文（注釈）があるとよいのかもしれない。

○委員からの意見

8ページの第3章のアンケート結果についても、人数や回収率について付け加えた方がよい。

○会長

12ページの※ニーズ調査の注釈のところの下に、「配布した数と回収率」くらいは明記

するとよい。

○委員からの意見

通学路の安全推進で、大津の事故を踏まえ国からスクールゾーンやキッズガードの設置について通達があったと思うが、そういうことは書かないのか。福井の武道館近くの交差点にはガードが設置されていた。そういうことは聞いてないのか。

○事務局

(当日配布のA4資料・・・庁内協議を踏まえた修正事項)の2ページのところに、「通学路等の合同点検・対策の実施」として「市内の小中学校の通学路、保育施設の園外活動箇所の危険箇所を把握するため、年1回、市教育委員会、道路管理者、警察、各学校関係者、各保育施設関係者が参加する合同点検を実施し、危険箇所の早期改善に努めます」と記載させていただいている。

○委員からの意見

23ページの基本施策2「乳児期からの正しい食習慣や生活習慣の形成」というところで、生活習慣の形成の部分が少し抜けているのではないか。

○事務局

生活習慣についても、施策の方向性として位置付けたい。

○委員からの意見

2人っ子世帯にも3人っ子応援プロジェクトのような支援があるといいなという意見があった。また冬の間の子どもたちの遊び場について、支援センターやちくたつくもあるが、それらの施設が休みのときに、近くで気軽に遊べる場所が大野にもっと増えるといいなという意見もあった。

○事務局

1点目の2人っ子の支援については、先日の新聞報道にもあったが、県は市町と共同で実施したいと発表した。来年度の当初予算の方向性に関連する事項であるかと思うが、方向性としては県内全ての市町が県と共同で実施していくような方向であろうと考えている。

2つ目の冬場の遊び場については、ニーズ調査などでお聞きしている件である。ハードとなるとなかなか難しいが、今あるスペースなどを利用して開放できないかということについては検討するべきところだと考えている。どの程度支援事業計画に盛り込むかについては検討したい。

●基本理念について

○委員からの意見

大野市は「結」をアピールしているので、「結」をいれたらどうか。大野市独自の「結」を入れるとよいのでは。

○会長

子どもが主体になる方法として「子どもがイキイキ」というフレーズを使うこと。もう

一つは、子育て家庭が関わっている、社会が関わっている、地域が関わっているという視点を明確になるような言葉を入れることでよいか。【委員了承】

(3) 認定こども園への移行について

【事務局説明】

市内の民間保育所2園が、幼保連携型認定こども園へ令和2年4月から移行予定である。それにより、0歳児～2歳児の低年齢児の定員が増えることとなる。

【委員了承】

(4) その他

大野市地域福祉計画策定委員会委員の推薦について【事務局説明】

子ども・子育て会議委員である、放課後児童クラブ保護者の砂子智美委員に決定

3 次回の会議

パブコメ終了後に第4回目の会議を開催させていただきたい。3月下旬頃を予定。

4 閉会

青井会長あいさつ